バイブルによるイエス神格性の否定（5/7）： イエスの非神格性を承知し

：

明:
多くの人々はパウロの著 を根 とし、イエスの神格性を主 します。しかし、パウロ自身はイエスの神格性を信じていなかったことが明 にされているのです。

目: 事比 宗教イエス キリスト

より: シャビ ル アリ

日25 Apr 2011

集日 25 Apr 2011

テモテへ宛てた手 のなかで、パウロは述べます： “神とキリスト イエスと ばれた天使たちとの前で、 かに命じる。偏 を持たずにこれらの指示に いなさい。” （テモテへの手 一/5:21）

ここからは、神という称号はキリスト イエスにはあてられていないことが明 になっています。次章で彼は、再び神とイエスを区 してこう述べています： “万物に命をお与えになる神の御前で、そして、ポンティオ ピラトの面前で立派な宣言によって しをなさったキリスト イエスの御前で、あなたに命じます。” （テモテへの手 一/6:13）

そしてパウロはイエスの再来について述べています： “わたしたちの主イエス キリストが再び来られるときまで、おちどなく、非 されないように、この を守りなさい。神は、定められた にキリストを してくださいます。” （テモテへの手 一/6:14 15）

ここでも、故意に神という称号がイエスから剥 されています。ちなみに、多くの人はイエスが“主”と呼ばれると、それが“神”を意味するのだと勘 いしていますが、バイブルにおいてこの称号は主人または教 を意味しており、人 への呼称として使用されているのです（ペトロの手 一/3:6参照）。

しかしより重要な点は、イエスが神ではないことを明 にした、次の章句におけるパウロの言 に注目することでしょう：“神は、祝福に ちた唯一の主 者、王の王、主の主、唯一の不死の存在、近寄り い光の中に住まわれる方、だれ一人 たことがなく、 ることのできない方です。この神に誉れと永 の支配がありますように。”（テモテへの手 一/6:15 16）

パウロは、神のみが唯一の不死の存在であると述べたのです。不死とはもちろん、 して死なないということです。どのような辞 を引いてもそのように いてあるはずです。それを踏まえると、イエスが死んだと信じる人物は、イエスが神であることを信じることが出来ないはずです。そういった信仰は、ここでのパウロの主 と矛盾するからです。さらに、神が死んだなどという主 は、神への冒 に他なりません。神が死んだのであれば、世界を支配するのは になるのでしょう？ パウロは神が不死であると信じていたのです。

またパウロは同じ章句の中で、神は近寄り い光の中に住み、 一人として たこともなく、また ることも出来ないものと述べています。パウロは何千人もの人々がイエスを たことを知っていました。それにも わらず、パウロは 一人神を たことがないと述べたのです。なぜなら、パウロはイエスが神ではないことを知っていたからです。これが、パウロがイエスは神ではなく、キリストであると教えた理由なのです（使徒行 9:22と18:5参照）。

パウロはアテネにいたとき、神についてこう述べています：“この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造られた神殿などにはお住みにならない。”（使徒行 17:24）そして彼はイエスをこのように なしていました：“かれ（神）のお びになった方。”（使徒行 17:31）

明らかに、パウロにとってイエスは神ではなかったのです。もし彼が自分の著 が彼の信条とは正反 のことの 明として に使用されたということを知れば、 いたでしょう。さらに、パウロは法廷でこのように 言しているのです：“
私は父祖の崇 していた神に仕えることを めます。”（使徒行24:14）

また、使徒行 によると、彼はイエスが神のしもべであると述べています：“アブラハム、イサク、ヤコブの神であり、わたしたちの父祖の神は、その イエスに 光をお与えになりました。”（使徒行 3:13）

パウロにとって、神とは父のみを指していたのです。パウロは述べています：“すべてのものの父なる神は唯一である。”（エフェソの使徒への手 4:6）パウロは再度言います：“私たちには、父なる唯一の神のみがいますのである　また、唯一の主イエス キリストのみがいますのである。”（コリント人への手 一/8:6）

パウロによるフィリピ人への手 （フィリピの信徒への手 2:6 11）は、イエスの神格性を明するものとしてたびたび引用されます。しかし、その章句自体がイエスの神格性を否定しているのです。その章句は、すべての膝は神にかがみ、すべての舌は神のみにこそ正 と力があることを 言しなければならないと神が言った、イザヤ45:22 24に合意していなければならないはずです。パウロはロ マ人14:11においてそれを引用したため、その章句を承知の上でこう宣言しています：“私
は御父の前にひざまずいて祈ります。”（エフェソの信徒への手3:14）

ヘブライ人への手 （1:6）では、神の天使たちは子を崇 しなければならないと されています。しかしこの章句は七十人　版の申命 32:43に基づいているのです。この言い回しは在のキリスト教徒たちによって使われている旧　に 出すことは出来ず、七十人　も彼らによって既に有 ではないと なされています。しかしながら、七十人　版自体、子を崇 せよとは 述されていないのです。そこには、神の天使たちは神を崇 せよ、と されているのです。バイブルは神のみを崇 せよと主 しています：“
主はかつて彼ら（古代イスラエル人）と契 を び、彼らに命じて言われた：「あなたがたは他の神々を敬ってはならない。また彼らを み、彼らに仕え、彼らに 牲をささげてはならない。
ただ大きな力と伸べた腕とをもって、あなたがたをエジプトの地から き上った主をのみ敬い、これを み、これに 牲をささげなければならない。またあなたがたのために きしるされた定めと、おきてと、律法と、戒めとを、慎んで常に守らなければならない。他の神々を敬ってはならない。わたしがあなたがたと んだ契 を忘れてはならない。

また他の神々を敬ってはならない。ただあなたがたの神、主を敬わなければならない。主はあなたがたをそのすべての の手から救い出されるであろう」”（列王 下17:35 39）

イエス（彼に平安あれ）はこれを信じ、ルカ4:8においても　していました。そしてイエスも地面に をつけ、神を崇 していたのです（マタイ26:39参照）。パウロはイエスが神を崇 していたことを承知していました（ヘブライ人5:7参照）。パウロは、イエスが永に神に　であることを いたのです（コリント人一/15:28参照）。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/673

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。